

# 御射山社祭

## 原山さま

8月26～28日、町の指定史跡である神戸の御射山社（みさやましゃ）において、御射山社祭が行われました。

この祭事は、秋季の台風などが平穏に過ぎ、五穀が豊かに稔るよう祈願する諏訪上社の代表的な「御狩りの祭事」で、中世以降今日まで引き継がれています。



和傘が飾りつけられた神戸八幡社

祭りは、諏訪上社より国常立命（くにとこたちのみこと）と諏訪大神（すわおおみかみ）の2神をお迎えし、穂屋（ススキで囲った仮屋）を造営して大祝・神長官をはじめ、多数の神官や武士などが穂屋にこもり、捕らえた獲物を神に供えて、豊作を祈願しました。現在もご神体を神輿にのせて、歩いて御射山社までお連れし、神事を行っています。

今日はこの御射山社祭を無事執り行うことが神戸区長の大事な務めになっています。



御射山神戸区では、家ごとの門口にススキの束と提灯、和紙の花の連をつけた和傘を飾る慣わしがあります。時代の流れの中でプラスチック製の花飾りに変わっていた和傘ですが、このほど地域のみなさんが和紙の花づくりを復活。諏訪大神の神輿が帰りに立ち寄る神戸八幡社に飾りつけました。暗闇の中に灯された口ウソクの灯りは、かつて国道の両側にこの和傘がずらりと並んだ頃の郷愁を呼び起こしました。



高齢者に和紙の花づくりを教わる子どもたち

御射山社のある一帯が通称「原山」と呼ばれていたことから「原山さま」とも言われ、腹を病まないとして数え年2歳の子どもの健康祈願も行われています。

子どもたちはススキの穂のお守りをいただき、神輿ぐりをして無病息災を祈るとともに、厄を託した長寿の魚といわれるうなぎを川に流します。

